

# 令和7年度 第4回社会教育委員会議

【日時】 令和8年(2026年)1月15日(木) 15時00分～16時30分

【場所】 鎌倉商工会議所 102会議室

【出席委員】 蛭田議長、久保内委員、石井委員、下山委員、岡委員、岡田委員、黒木委員、中島委員、

【行政職員】 小林教育文化財部長、保住教育文化財部次長兼教育総務課担当課長、鈴木教育文化財部次長兼文化財課長、三木教育文化財次長、飯田生涯学習課長、栗原図書館長、

【事務局】 神長社会教育主事、岸社会教育指導員

【傍聴者】 1名

## 【議事内容】

### 1 開会

#### 事務局

令和7年度第4回社会教育委員定例会議を開催する。始めに今回は新年あけての第一回目となるので、教育長より挨拶を申し上げる。

#### 教育長

本年もどうぞ宜しくお願いします。社会教育委員の先生方には平素から社会教育の振興のための様々な助言ご指導頂いています事を改めて感謝し、今年も変わらずご指導頂きたいと思う。私も新年明けて先週3連休だったが、非常に社会教育の力を感じた3連休だった。初日はPTAの文化の集いで先生方と保護者の皆様と、コーラスのイベントに参加して、腰越小学校の力強いコーラスを拝聴してきた。次の日は鎌倉ロードレース大会で、私も出場選手として中学生に交じって5キロを何とか走って中学校の体育の先生に勝利をした。勝ち負けではなく、チャレンジするという事で、健康であったり、自分の学びにつながるような大会になったかと思う。3連休最後に二十歳の集いで芸術館に出席した。成人年齢は18歳になったが、二十歳の集いということで、20歳の節目のタイミングでもある。今回は20歳になった子ども達は中学校の2年生から3年生にかけてコロナ禍の全国一斉の臨時休業があって、学校が休みになったり色々な行事が出来なかったりした少し気の毒だった世代である。そう言った事を乗り越えて、本当に立派な姿で大人になってくれたというメッセージを送って来た次第である。このような形で教育委員会と社会教育が連携して、様々な施策を一層進めていく必要があると感じた週末だった。今日の議題になっているように思うが、教育振興基本計画あるいは教育大綱という、今年度社会教育委員の先生方と、教育委員の先生方とも一緒に議論しながら、一本のこういうものを作れたという事は社会教育にとっても学校教育にとっても非常に力強い前進する為の文章になったと思う。この教育大綱や教育振興基本計画は、市全体の総合計画の中に位置づけられて子ども、あるいは大人も含めた育ち、学びというところを市としてもリーディングプロジェクトだということで、力強く推進していくことになっている。これまでのご議論、市民の方にこの場を借りて感謝したいと思う。今日も議題になるかもしれないが、組織の見直しを市役所教育委員会で控えている。ざっくり言うと、こどもみらい部と言う組織があり、教育委員会の中で扱っていく。インソースシェアの様な所から子ども達の育ち学び、そして大人達の生涯学習

プランまで一環して教育委員会で所掌していくという全国的にもまれなケースになるかと思っている。国では子ども家庭庁と言う役所が出来たが、子ども家庭庁と言うのはある意味では文科省から幼児教育を切り出せなかったのが、第2厚労省みたいな感じになってしまったのですけれども、鎌倉市から教育委員会と言う傘のもとに、子ども家庭関係全一貫で進めていく、それが大人の学びや育ちにつながって行く姿で、一層推進したいなと思っているしだいです。巷では選挙と言う事でざわざわし始めていて、年度内に選挙があると言う事で市役所では急ピッチで準備始めようと言う所ではありますが、市の方でも市議会議員選挙や市長の選挙があって、かねてからの懸案でありました市役所の移転と言う所についても、両輪の案ということで本庁舎がある地域に議会とか、市長の部屋、市長の作った総務部、そういうものを置きつつ教育委員会だったり、各事業部は深沢に新庁舎の2拠点で進めて行くという方向性が示されている。本当に様々な市役所としての機能だけではなく子育て機能であったり、あるいは図書館の学習センターなどそれぞれ老朽化している部分を一層充実させる場が出来る。そして子どもたちや青少年あるいはここにいる皆さんの場所も、一層良い絵が描けるというふうに確信しているので、そういった動きがあるので、また先生たちから助言をいただきながら、よりよい場を市役所として作りたいと思った次第である。そして博物館の関係で言うと、国宝館や歴史文化交流館の方も様々、去年は東アジアの文化都市との絡めた企画展をやっていた。今後は100周年、10周年という事をまた控えているので、そこに向けてより環境整備とか、その節目となる人員含めて力を入れていきたいと思っているので、そのところもまたよろしく願います。鎌倉という地域なので、まさに子どもも大人も学び事ということ为核心にして、それぞれの人生を豊かに、そして幸せに生きていける、自分らしく生きていけるということにつながるような、そのような街に、ある意味学びを核にした街という事、文化と観光というところだけではなく、この社会教育委員の皆様にご議論を頂きながら、そういった街につながっていくような施策を教育委員会としても力強く今後更に進めて行きたいと思っているので、様々なご意見をいただければと思う。今回色々解決しなければならない問題がたくさんある。学校の中で声大きいことということ、たくさんの人に言われたり、あるいは体育館の冷房というところも色々な課題だったが、こちらについても今後予算計上して整備を社会教育施設も学校の方も冷暖房については、少しお時間はいただくが、進めていくことになりましたので、それだけではないのですが、我々には2つあるところで補いながらよりビジョンを描いて、そして足元の苦しい部分はしっかりと尊重してという両面で進めていきたいと思っている。冒頭で色々話してしまいが、これに限らず今日の議題もあるが、議題に限らず年初めの委員会なので、先生方からも様々な意見や質問をいただければと思っている。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 事務局

教育長この後公務があるので、退席させていただきます。

#### 蛭田議長

それでは、はじめに委員の出欠状況の報告をお願いします。

#### 事務局

本日は、島田委員と長瀬委員から予め欠席の旨を頂いるが、定足数に達成しているので、社会教育委員会規定第3条の規定で定める過半数を超えている事から会議は成立していること事を報告する。また1名の傍聴者が参加する。

#### 蛭田議長

本会議は成立しているとの報告を受けたので会議を進める。事務局より会議資料の確認をお願いする。

#### 事務局

机上の中にファイルが保存してあるので確認をお願いする。次第、起案集、教育振興基本計画、資料、ポスターの4つ揃である。

#### 蛭田議長

それでは議題に入る。

### 報告事項 ア、令和8年度吉屋信子記念館一般公開予定について

#### 飯田生涯学習課長

鎌倉市吉屋信子記念館は、昭和49年に作家吉屋信子氏の親族から寄贈を受け、故人の遺志に基づき家屋・土地を学習施設として活用し、記念館をより多くの人に広めるために、5月・6月・10月・11月の1日から3日及び土曜日と日曜日、並びにゴールデンウィークを無料で一般公開している。令和7年度は、年間48日の一般公開を行い、2,128人の来館者があった。令和8年度も引き続き、資料のカレンダーのとおり、年間47日一般公開を予定している。公開時間は、午前10時から午後4時まで（入館は午後3時45分まで）とする。周知方法は、広報かまくら、市ホームページ、記念館での掲示などで、適宜周知を行う。

#### 蛭田議長

質問、意見などあるか。なければ吉屋信子記念館の一般公開については了承する。

### 報告事項イ、令和8年4月に予定している機構改革について

#### 三木教育文化財部次長

（議案集3ページ）令和8年4月に予定している機構改革について報告する。鎌倉市役所は、令和8年4月1日に機構改革を予定しており、この関係の条例が12月以降に作られている。正式なものは年度の直前に決まるため、現状の案と言うところで報告をさせていただく。（4ページ横長の地図のようなもの参照）子どもの育ちと学びの施策の融合というところで、こどもみらい部が入ってくる形になっている。また、教育委員会事務局は、学校教育、所管の学校を持つ小学校中学校を中心にしますが、この部分に学びみらい部という部を新しく作り、それ以外全体に関わる部分については、教育文化財部と言う形で、現状、教育文化財部の一部のところをこどもみらい部も取りこみながら、合計3部と言う形で再編することを予定している。主に我々として考えている組織としては、子どもが真ん中の施策というところをこれまでの鎌倉市として進めてきていたが、これを強化していくと言う観点で組織再編し、ポイントを3つ上げる。1つは産前から就学後までの子育て相談をワンストップで実施できる体制の整備。今学校関係や、教育相談関係は、教育委員会の中に教育センターと言うものがあり、その中でやっている形になっている。産前とか、学校就学前の子どもの相談は、こどもみらい部の中にある形になっている。ただ当然子どもはどんどん成長していく中で、組織をまたいで相談業務で関わっていくと言うような形になっており、現状でもいろいろな状況を見ながら連携をしているが、このような部分をさらに組織の中で関わっていくことで、しっかり今以上に連携しながら、子どもあるいは保護者の支援につなげていきたいと思っている。ポイント2つ目は、いじめ対応等の強化に向け法務担当を新設で、全国的にいじめが認知件数が増えている状況にある。この傾向は鎌倉市の中でも同様の傾向になっており、このようなど

ころをしっかりと対応していくために法務担当を改めて設け、しっかりと進めていく体制を強化していくため書かせてもらっている。ポイント 3 つ目は、複雑な課題に対応した教職員の適正配置のため、学校人事課を新規に設ける形にしている。これは市費負担、市の負担において、教員を採用していくとすることを次年度から実施していくことになっており、そうしたところの体制の強化と言うところで記載させてもらっている。いずれも社会教育の中でと言うところは直接的に言うところでは無いのですけれども、この組織の再編の中で主だったところで関係してくると言うところで申し上げますと、5 ページ目になるが、教育大綱やこども基本計画の有機的な連携というところを書いてある。今回生涯学習プランとか、図書館関係の計画、こちらを教育振興基本計画の中に一体にしたが、こうした計画等を作っていくときに、子ども施策、生まれたところから生涯の学びというところまで一貫してみていくと言う所の連動性を、これまで以上に考えていきながら作っていく。そういったところが大きなところになると思っている。また、ここに直接書いてはいないが、こどもみらい部には青少年課があり、青少年の健全育成、本来教育委員会の中の業務になっているものが市長部局のほうで実施する形になっていたのが、教育委員会の中に戻ってくることになる。青少年健全育成の観点によると、青少年会館で実施している事業を含めて、まさに生涯学習の中で見ていくような話とオーバーラップしてくると言う部分が非常に多くあるので、次年度以降はこちらの会議の中でも、議題として取り扱っていくことが増えてくると思うし、我々としてもきちんと連動性、あるいは重複を排除しながらより新しいこと、必要なことを手厚くしていけるように、ご意見をいただきながら進めていきたいと考えている。以上、次年度以降の機構改革を進めていきながら変えていくと言うことを説明した。

#### 蛭田議長

ただいま報告を受けました令和 8 年 4 月に予定している機構改革について質問、意見あるか。

#### 下山委員

例えば「放課後かまくらつ子」みたいなのもこの全部教育委員会につながると凄いいいなとは思っていますが、どういうつながりを持って進められるのか。また、青少年指導員なのだが、今までは委嘱が市長部局だったのが、今後は教育長の委嘱という形になって動いていくのか。

#### 三木教育文化財部次長

このかまくらつ子の関係から話をすると、これまでこどもみらい部の中でまさに青少年課の中で委嘱しており、市長部局のほうですべきというものがあり、それらについては補助執行という形で、市長の権限なのだが、事務としては教育委員会が行うという形があり、そちらの方で事務を持って来る形にしている。放課後子ども教室にあたる事業は、本来児童福祉法の話になるので、そちらを補助執行でやるので、権限としては青少年課の方で、市長に権限を持って進める事になっている。ただ教育委員会としては、例えば場所をどういった形で確保しながらやっていくか、あるいは学校の先生がどういった形で勉強していきながら、学校での学びの時間と放課後の子どもの学びの時間をどうつなげていくかという視点を持ちながら、進めていきたいと思っているところである。また、任命の話は、先ほど申し上げた通り補助執行なので、権限が市長とことになる。

#### 蛭田議長

他にまだございますか、どうぞ。

#### 黒木委員

別の機会で耳にすることがあるので、そのときに聞くことだったのかもしれないが、各部署の人数配

置などはこれからだと思うが、総数としては今現在の人数よりも多分増えるのだろうと思う。現場から委員会に出ている方々も結構いるので、ここでやはり増えるとなると、上からも出す人が増えるのかなと思ったのだが。ここで聞くべきことかどうかわからないが、聞きにくいことではあり、大体で良いので聞きたい。

### 三木教育文化財部次長

増えるか減るかという部分で言うと、基本的にそこは変えない前提と思っている。ただ教育委員会としてこどもみらい部を持ってくる形なので、教育委員会機構全体の定員という意味では、こどもみらい部の部分の機構の定員が全て入ってきて、全体でいくと2倍にはいかないくらいの人数の規模に次年度以降はなっていくということである。

### 小林教育文化財部長

行政の席の人数に変更があるかという点、基本的に変更がないように今はしていますし、変更するのであれば相前から県に協議をしないとイケないので、していないということは恐らくやらない方向だということになっている。市費負担教員を雇うということで、30人ほど教育委員会部分の人数の定数を増やしているところもある。ですから今の教育委員会の人数とこども部局の人数を足したよりも低くなることはないが、ただ、採用試験でもなかなか集まっていない状況があるので、別な課題があると認識している。

### 蛭田議長

他にあるか。質問無ければ了承する事とする。

## 報告事項ウ 計画策定始めとした図書館の近況について

### 栗原図書館長

議案集は6ページ。資料につきまして教育振興基本計画27ページをご覧ください。まず、2つの図書館の計画の策定については、第1回社会教育委員会会議において、報告させていただいたが、昨年12月に、鎌倉市教育振興基本計画に内包される形で、図書館サービス計画、こども図書活動推進計画を策定することができた。教育振興基本計画には4本の政策の柱が立てられており、そのうちの4番目、「学習者中心の学びを支える環境を整備する」に図書館は該当し、右下の「地域における生涯学習基盤の整備」において、「生涯学習センターや図書館など、こどもから大人まで生涯にわたって豊かな学びが得られる環境整備を確実に進める」としている。次に32ページ、重点プロジェクト「地域における生涯学習基盤の整備」のうち、「う」として「図書館サービスの維持・向上」、「え」として「こどもの読書環境の整備」を柱の一つとして、それぞれ立てている。「う」は図書館サービス計画に関する部分となるが、「図書館サービスの維持・向上」では、主要な施策として「鎌倉市図書館ビジョンの実現に向けて、環境整備と人材の育成、知識や情報のハブとなる資料の充実を推進するとともに、読書バリアフリーを含めた図書館サービスの向上を図る」「新施設における図書館の整備を見据えながらこれからの図書館を考えるとともに、現在の各図書館についても市民が安全で快適に過ごせるよう設備を充実させる」とし、施策の成功のイメージとして「誰もが利用しやすく、全市民の知識、情報のハブとなる図書館ビジョン『つながる・ひろがる・100年図書館』が実現されている状態」を目指す。「え」は図書館のみならず、市全体で推進していく子ども読書活動推進計画に関する部分となるが、「こどもの読書環境の整備」では、主要な施策として「こどもたちの豊かな読書環境を、家庭・地域、学校、図書館・行政が連携して整備す

る」「こどもの居場所としての図書館のサービスや施設整備の検討を進める」とし、施策の成功のイメージとして「豊かな読書環境のためのヒト・モノが整備され、こどもたちがいつでもどこでも楽しく本とつながることで、自ら学ぶこと、考えることを楽しんでいる状態」を目指す。それぞれの具体的な内容については、34 ページ、35 ページで記載しているので、まずは鎌倉市図書館サービス計画 34 ページを開いていただきませう。計画の目的は「つながる・ひろがる・100 年図書館の実現」とし、取り組みとしては、「読書バリアフリーサービスの充実」「知識や情報のハブとなるサービスの拡充」「鎌倉の魅力を集積し、発信する図書館の実現」を中心に進めていく。特に重要なものを内容として記載しているが、特に大事と考えるのは、この計画が読書バリアフリー法を兼ねていること、また、3 の 3 つ目に「司書職の継続的な採用により技術の伝承を図り、人と情報を結ぶ人材を長期的に育成する」というもので、計画に記載できた点は大きいと考えている。次に、35 ページ「第 5 次鎌倉市子ども読書活動推進計画」である。計画の目的だが、「こどもたちが求めるときに自由に本を選び、本に接することができる、そして、本の探し方や本の楽しさを伝えてくれる人のいる、豊かな読書環境を、家庭・地域、学校、図書館・行政機関が連携して整備すること」とし、基本方針として「読書の楽しさを伝えることを応援します」「どこでも読書を応援します」「こどもと本をつなぐ人たちを応援します」の 3 点をあげている。具体的な取組は右側に記載のとおりである。計画期間ですが、教育振興基本計画は年度内に策定され、スタートしたが、図書館の計画は令和 8 年 3 月末まで現行計画の計画期間があるため、4 月のスタートとする。次に、現在の図書館の施設についてである。中央図書館は、昭和 49 年に現在地に移転し、昨年、建設から 50 年の節目を迎えた。今後、市役所の整備と併せ、深沢図書館、中央図書館の施設整備が計画としてつくられていますが、実際に整備が実現するのは 10 年近く先となるのではないかと推察される。幸い、耐震工事も完了しており、令和 4 年以降も個別空調設備の設置、ブラインドの修繕、照明の LED 化などを進めることができているので、今後も引き続き、現在の建物を大事に扱い、地域の図書館とともに、居心地の良い図書館となるよう努めていく。最後に、行事についての報告である。図書館では、各種展示と併せた本の紹介、館内や訪問先でのおはなし会、図書館との協力団体と共催するファンタスティック☆ライブラリーなどのイベントを実施しているが、本日はその中で、12 月 26 日に開催しましたビブリオバトルを紹介させていただく。「ビブリオバトル」は、発表者が 5 分間で、自分がおもしろいと思った本を紹介し、発表者、観戦者が最も読みたくなった本に投票するイベントである。運営については、前回、学校単位で参加した栄光学園及び清泉女学院の先生方と打ち合わせを重ね、当日は栄光学園中学高等学校の小講堂と聖堂ホールをお借りした。また、資料に添付したポスターの作成や、司会等などの運営も生徒たちと共に実施することができた。事前に、発表者は「中学生以上 20 歳以下の人」で募集するとともに観戦者はどなたでも、として声掛けし、当日は生徒が 28 人、観戦者がスタッフ他を含めると全部で 70 人が集まるイベントとなった。グループを 6 班に分け、発表参加者が読んで面白いと思った本を順番に班ごとにディスカッションしてもらい一冊を選出しました。いずれの本が選ばれてもおかしくないぐらい熱意を持って紹介している姿が素晴らしいものだった。交流会後に会場を移して予選を通過した 6 作の本で競い合う本戦をステージ型で行い、冒頭に教育長から中高生におすすめしたい本として、フランクル・ビクトール・エーミール著の『夜と霧』をデモンストレーションしてもらい、その後選ばれた 6 人が 6 作の本を発表、最後にどの本が一番読みたくなったかを基準とした投票を実施し、チャンピオン本が選ばれた。今回チャンピオンとなった本は、中学一年生に非常にうまくプレゼンを行って、面白すぎて時間を忘れる僕の世界、という本が選ばれた。まさに時間を忘れる素敵な一日だったが、このような取り

組みは図書館利用の活性化、利用者同士の交流促進そして何よりも子ども達が図書館や本に親しむ機会となることを改めて実感した。社会教育の一環ともなりうるものであり、これからも図書館だけでなく、周りの人も一緒になって、様々な行事に取り組んでいきたいと考えている。

#### 蛭田議長

質問、ご意見などはあるか。

#### 下山委員

このビブリオはすごくいいと思う。事前告知はどのようにしていったのか。

#### 栗原図書館長

今回 2 回目の開催となるが、栄光と清泉の先生方とも一緒になってどれか進めようと協議を行い、実施の要項、それから先ほどのポスターを各学校に送り、また図書館のホームページでも広報して自分も出たいと言う人を募ったというような流れになっている。

#### 下山委員

ここに集まったら 27 人の生徒は、ほとんど栄光の生徒か。どこの学校が多かったか。

#### 栗原図書館長

栄光学園、清泉女学院の生徒がやはり多かったが、それ以外に鎌倉女学院、北鎌倉女子学園からも学校としての参加があった。一般の公募の中では浅野中学、逗子開成中学等の他の中学校からも参加があった。公立学校にも魅力ある形で PR し、次の回につなげていきたいと考えている。

#### 久保内委員

ビブリオバトルを担当された先生というのは司書教諭のような役割の先生なのか。それとも課外活動などの流れで担当されている先生なのか。

#### 栗原図書館長

司書教員の先生や学校司書の先生、学校図書館の司書の先生と一緒に参加し、お話しをして内容を詰めてきた。ですからどちらの先生も含まれる。また当日は、栄光学園でも時間ある先生が来ていただき、皆さんの様子を見ていただいたという状況。栄光学園は、当日に、なかなか入る機会が少ない学校図書館の見学もさせていただいたので、皆さん喜ばれたのではないかと感じている。

#### 石井委員

今のビブリオバトルがすごく面白いと思ったが、私学が中心になっているようで、公立中学でもぜひと思う。私は、他市の中学校の授業でビブリオバトルに取り組んでいるのを実際見て、凄く面白いなと思っていて、鎌倉市内でも国語の時間か何かでビブリオバトルをしているのではないかと思っていたが、そこで勝ち上がっていった人は出るというくらいあれば、私学も公立も一緒になって良い刺激になるのではないかと思った。

#### 栗原図書館長

なぜか公立の名前が出てこない。やって欲しい部分はあるが、学校現場に詳しくないのではっきりとは分からないが、熱心な会計年度職員の図書司書がいて、そういう方たちがいることは認識はしているので、もう少しその辺を周知して、ぜひ公立でも参加していただきたい。

#### 石井委員

先ほどの計画でも図書に力を入れていることを感じているので、是非ビブリオバトルをして欲しいと思う。

## 岡委員

御成中学校だと、バトルまでやっているかは分からないが、自分のオススメの本をイラスト付きで書いた本をプレゼンしていたので、そのような事をやっていると思う。

## 栗原図書館長

今いただいた話は課題の一つとして捉えていて、今やっと2回目できたところである。これまで検討する中でもビブリオバトルをやるのは難しいという話もあったが、それでもこういう形で開催することができた。引き続き公立の学校も含めて、より多くの人に参加できるような工夫をしていきたいと考えている。

## 石井委員

これは発表する力もすごく就く。皆に自分がどう面白い本をアピールするかとかを実際に授業で取り組んでいるのを見たので、これはいいと凄く思ったところである。

## 岡田委員

本来の目的として、本に親しんでもらう、本を読んでもらいたいというところからだと思うので、例えばビブリオバトルで紹介されて票が多く入った本について、図書館で展示する時に図書館蔵書とか、そういった視点で紹介をするとか、あるいは生涯学習センターなどで示していただくとかして、少しでも多くの人に、こんな本があるという事を周知していただけるような形を取ってもらおうと親しみにつながるのと思うので検討してほしいと思う。

## 栗原図書館長

読書に興味を持つということでは非常に有効な手段だと思っている。今回皆さんがそれぞれで自分が良いと選ばれた本については、リストを図書館のホームページ掲載し、それから各図書館でも選ばれた本を掲示している。ただ、今終わったばかりなので読みたい本が集中してしまい、現実には貸し出しで回っているの、少し落ち着いたタイミングで案内などが出来るのではないのかと考えている。

## 岡田委員

別件だが、新しくできる図書館は、まだ10年先ということだったので、これから色々変わると思う。基本的には買い足して、蔵書については見ることができると、というような方針の理解でよろしいか。

## 栗原図書館長

先ほど教育長から両輪で、という話もあったが、図書館の施設整備、現在の深沢図書館は市役所の庁舎に統合されて、深沢地域での図書館として引き続き運営される。それから今現在の鎌倉市中央図書館については、市役所が再整備される中で、そこに移転して図書館機能を中心としての複合施設というようなイメージになっている。本の状態というのは、様々な事情がありますのと、全てが全て買い足してというのは難しい状況もある。なので引き続き開架式、取りやすいような書架をキープしたりして工夫をしながら開架式の部分、それから部分というのも保存性で見たら、残しつつ、開架式の方もある程度建物の中で自由に開けるような、その本を見て色々話をしたり、声を出してしゃべれるような環境も含めて生み出していきたいと検討の中で所管としても声をあげているところである。なので、全てが開架という形には、なかなか難しいと思っている。

## 岡田委員

ありがとうございます。若干加えると、今鎌倉駅の地下通路のところに、深沢地区の計画が掲示されていたと思うが、図書館がとても立派になる、大和のシリウスようなのができると言うようことを耳にし

たので、素晴らしいものができたらよいと思っている。

#### 小林教育文化財部長

大和のシリウスのようなものができるのか、ということは、それを目指したいということだが、なかなかスペース的なこともあったして、シリウスに関しては、費用がかなりかさみ、大和市の財政もかなり厳しいらしく、身の丈に合ったことをやらなければいけないと思っている。今話があった通り、今までのように図書館スペースをがっちり決める、ということではなく、バーコードをつけるようなことをしながら、より生涯学習スペースでも少し本を読める、というようなことをやりたいと今考えているところである。基本はまだ10年後に開架式ではなくてということはないだろうと思っている、開架式前提でやるというのは難しい。深沢図書館はこどもの児童書部門で結構注意をしていたので、なおさら開架式というのは、子ども達がとりやすいようなことを今考えているところである。逆にここに市役所が建て替わるので、大船に出る前は地方図書館としての機能が強いため、資料というのを何か特別に見られるような形にするということを少し考えていかなければいけない。ただこの10年でまた色々変わってくるかもしれないので、その辺は注意をしながら進めていきたいと思う。

#### 蛭田議長

他にあるか。素晴らしい図書館ができると良いと思う。金沢市の図書館などNHKでも情報が出るが、いつでもコーヒーをそこで楽しめたり、寝そべて何かできるとか夢がある。他に意見がなければ、ただ報告について了承することとする。

### 報告事項エ 令和8年2月から3月までの行事一覧について

#### 蛭田議長

議案集5ページから7ページ各課の一覧があるが、質問、意見はあるか。

#### 飯田生涯学習課長

行事一覧7ページの5番だが、皆さまのお手元の資料は、歴史文化交流館で北条政子展のパンフレットである。ちょうど2025年が北条政子没800年の節目の年になっており、12月から2月末までの会期で実施している。見どころは北条政子座像というものがあり、今回初めて外に出ることになる。実物を見ると、教科書などでの印象よりも意外と小さいと感じる良い機会となるので、ぜひお越しいただければと思う。

#### 蛭田議長

昨年歴史文化交流館に行かせてもらった。やはり発掘されたすごい良いものとか、あまり触れられないものを見ることができて、すごい研究されていると思った。今度は北条政子展。是非行ってみたいだけばと思う。他にあるか。どうぞ。

#### 下山委員

文化交流館で江ノ島詣でのものを作ろうとかがある。前は甲冑を作ろうとかがあったが、人数が3人とか5人となる。そうすると1週間やられても、5人だとすごく少ないと感じる。時間がかかるので難しいとは思いますが、もう少し人数を増やすとか、意外と子どもってあそこに行くのは遠いみたいだが、作ると関心を持って「どういうものなのだろう、甲冑ってどんなものなのだろう」というように言い出すので、子どもたちの関心の入り口を作ればもっと行くのではないかと思う。前はマンガの鬼滅みたいなのがあり、こぞって行ったようなので是非願います。

## 蛭田議長

他にあるか。なければ行事一覧について了承することとする。

## 2 その他 社会教育委員連絡会第2回理事会の報告

### 事務局

令和7年12月4日に社会教育委員連絡協議会第2回理事会が開催され、県の社会教育連絡協議会理事の下山委員が出席されたので願います。

### 下山委員

理事会の方より事業報告等があり、神奈川県の大会も無事に終了した報告をいただいた。8年度の事業計画案では、総会が6月8日に参加いただければと思う。また研修会は、7年度は大会があるために行なわなかったが、今回は8年6月8日県民センターで実施するのでご参加いただきたい。そして、また研修会は、1回目が8月11日にほぼ決まったというところ。地区研究会は、横浜市が令和8年8月ごろ発表するで、久々に横浜市が出てくることになった。足柄市の方は、令和9年1月22日ごろの予定で、内容等はまだ何も発表されていません。会計監査は8年度葉山町、そして小田原になる。あとは関プロの方は、群馬県、群馬大会ということになる。全国社会教育大会は大阪。そして研究会もローテーションになるが、鎌倉に特化して話すと、令和10年に研究会の担当になる。それと監事、監査は、監事の方が10年、監査の方が13年度。これは市から出ていただくことになるかと思う。それから総会のお手伝いについてはローテーションだが、令和7年度にやったばかりなので当分はごさいません。それから執筆の方、いつも会長をお願いしているところではありますけれども、5年ごとということなので、また令和10年に執筆をお願いします。時間があるので、大会に参加感想をいただきたいと思うがいかがか。

### 蛭田議長

参加した方、おひとりずつ伺うのでどうぞ。

### 石井委員

久保内先生が助言者としていらした家庭教育のテーマに行った。私はそのような集まりに以前出たことがあり、何年前か覚えていないくらいだが、そのときと違ってすごく充実していた。周りの4、5名とグループで話し合った。皆さん社会教育委員は、地域の社会教育に携わっている方の代表で、自分のところのお話をされ、私はすごく良い刺激になった。私は、直接に社会教育を鎌倉市で何かしているということではなかったので、私も何かしないといけないと思った。先生のお話もとても良かった。

### 黒木委員

私もグループで話したときに教員出身の方がいて、すごく良かったというのはもちろんだが、行政と高校生とのつながりの部分をもっと知りたいと言っていて、そのところは本当に発表のあと何か連絡ができたらなと感じた。鎌倉でまた何かできることがあったらと感じた。

### 岡委員

私も同じジュニアリーダーと、藤沢のものに出たが、あちらのボランティア活動の団体で、現役の高校生たちが、今自分たちが楽しめることをやるということで、音楽フェスティバルを開催しが、私が一番気になったのは、元手としてどうしてもお金がかかるわけで、その辺のところをどうやって出しているのがとても気になった。あと栃木県のところの人口の少ないところと、藤沢市という人口の多いところの話で、やはり同じ時代の話だが、規模とかが違って、その対比もとても面白く感じた。

## 岡田委員

栃木県の発表に3点ほど質問したが、立場としては高校の教員なので、高校生がそういうことに参加していて、なかなか難しいというような話もあったので、ちょうどその後12月に参加したところで話をする機会があり、「なかなか難しいものですね。」というような話をしたら、「そんなことはないですよ。」というような話もあり、実際問題としてあのような活動をしているということを学校はなかなか知らないということもある。そういうところはどうかと思ったら良いのかなと感じているところである。それから、あそこでは、長く続ける、持続可能ということがテーマだったので、あの会が栃木県だったので、ということができると良いのかということ非常に興味深く伺えた。

## 下山委員

鎌倉市のものは40年くらい続いている。

## 蛭田議長

他にあるか。

## 中島委員

私は東アジアの方をずっと担当していたので、会議のどこにも行かれなかった。

## 久保内委員

私はその第三部会の家庭教育の助言者で入ったが、群馬県高崎市と寒川町の事例があって、二つ極端だった。高崎の方はかなり福祉行政が入っており、社会教育として、市として福祉行政の方に入れてくるということがあって戸惑いを感じたりした。教育支援チームという文部科学省なども入ってと言う話もあって、実際どうされているのか興味深い話だった。寒川町は図書館と公民館の方が来ていて、家庭教育支援をしているという、図書館の事例がとてもユニークで、かなり色々な親子向けのものなど、事例が割れているような感じだったので、会場でもすごく盛り上がり積極的に参加されていて少し圧倒された。

## 蛭田議長

私は開国資料館の方に参加した。助言者の先生の方からグループになってフリートークという時間があり、そうしたら、私の隣が静岡の方とかで、栃木の人口の少ない2万とか3万くらいのところであれだけ高校生が活動を続けるというのは大変なことですよ、という印象があった。静岡の街の方では、ああいうことはできなく、人口が減っているのだから、生涯学習活動どころではないと。もう施設そのもの、公民館もダメなのだと。私の印象では、人口が少ないところの事例は事例として、青少年の健全育成、そのようなどころに関わるやり方というか、関わった方は大変だと思う。続けるということ、継続が非常に難しく、地域の住民や行政が一体、一緒になってやるということが大事。私が思うに、なぜ人口が少ないところばかりが事例があがってくるのだろうか。相模原とか藤沢とか人口が20万、30万、そういうところの活動がなぜ出てこないのか。なぜか人口が少ないところばかりなのが印象的だった。それから国立社会教育施策研究所60周年記念というのがあった。多分みなさん関わっていただいたと思うが、社会教育主事と社会教育士の発表などや事例発表もあったが、そこも2万とか3万とか人口が少ないところしか出てこない。そうしたらどこを取り上げたら良いのかということも言っていたのが共通した印象的だった。社会教育、生涯学習、関心は色々相対的には目減りする、予算は減るけれども、関係活動とか関わる人は増えているので、関心は強いのだと思う。鎌倉市はこういう計画、それから組織編成があったが、鎌倉はこうした新しい方向が出てきているところなので、良かったと思う。大会について無事に終わったこと、特に皆さんが本当にそれぞれご尽力いただき、ありがとうございました。

## 下山委員

今回の大会の参加者は749名、情報交換の方は149名、そして分科会の方には749名に近い方が出られて関心の強さをすごく感じる場所だった。時間が足りずもう少しあると良かった。

## 蛭田議長

一日目の終わりですか、情報交換会が店の1階と2階で分散してしまっただけ。2階が神奈川県、1階が他府県で合体した方が良かったのではないかと思います。

## 蛭田議長

注ぎまわるのが好きだが、回ろうとしても狭くて通れない印象だった。とても良い雰囲気ではあったと思う。他に何かあるか。よろしいか。では次回の定例会についてお願いします。

## 事務局

次回定例会は5月定例会となる。その日程についてですが、いつ頃がよろしいでしょうかということ、事務局としてはできれば5月13日（水）もしくは5月14日（木）の午後開催を考えているところです。委員の皆様のご都合はいかがでしょうか。

（～日程決定にまで至らず～）

## 蛭田議長

年度が変わりということもあるので、ひとまず保留としてよろしいか。他に何かあるか。

## 飯田生涯学習課長

前回会議での話だが、教育振興基本計画の説明で委員から質問があったが、教育振興基本計画15ページの取り組みの方向性のところで「海や山、文化財、多様な資源。鎌倉には豊富な自然、文化といった社会資本がある。」この「社会資本」という文言についてだが、社会資本というのは、生活や経済活動を支える公共施設、設備の総称、いわゆるハードを指すもので、そういった地域の宝物を活用してプログラムを実施するという文脈になっている。教育振興基本計画のもとになっている教育大綱でも「社会資本」と言う言葉を使っているのだから、それにのっとった表現となっているということでご理解いただきたいと思っている。

## 蛭田議長

あと事務局の方で何かあるか。よろしいか。何か自由な情報交換の場などにした方がよいか。

## 下山委員

社会教育委員というのは、活動、体験活動はしないという一筆があるのか。

## 蛭田議長

社会教育委員という発想だが、これはそれぞれの分野の方々が、それぞれの立場で日頃活動していることを出していただく、と。だから例えば何か大会があってそのために何かをやるならば、社会教育委員として発表するとか、あるいは調査をするとか、それは良いということになっている。何しろ諮問機関で、丸々ボランティア活動ではない。ただ中には時代が時代だから、社会教育委員連絡協議会という団体が何か活動をするということは良いわけである。ただ、鎌倉市の社会教育委員会会議というのは行政の諮問機関なので、行政の諮問機関として動くには、教育委員会の了解を得てということにはなる。そのようなことがいつも話題になるが、それは昭和26年の文部省の社会教育の現状と課題という冊子があるので、そこにも出ている。社会教育は、当時はスポーツの代表だとか文化財担当の代表だとか学校の先生とか、研究者とか、今は家庭教育が入ってきている。当時はそういう中でもやはり話があった。当時の話の中で

そういう現状が出ていたが、それから 10 年 20 年経ってきても話が出ている。ただ、学校の先生方がここに出てきているけれども、学校の先生がその活動に参加したらどうなるのか。公務員という立場で、あるいは市民の立場でいるのなら良いが、諮問機関としての立場となってくると変なことになってしまう。このような解釈もある。

#### **岡委員**

私と永瀬委員は、PTA 連絡協議会の方から選出されているが、この 3 月で任期が終わるので、5 月ときには新しいメンバーの方で参加させていただくことになる。このような会議が開かれるということも実は知らなかったし、とても良い経験をさせていただき 2 年間、本当にありがとうございました。

#### **蛭田議長**

他にあるか。最近社会教育士のことが盛んに言われている。社会教育主事があって社会教育士という。単位を取って誰でもなれるというように言われている。調査もやったが、どうも人口 2 万から 5 万の調査のようで、人口 10 万とか 20 万の実態調査が出ていない。でもやはり社会教育士を取りやすいようにしなければいけないというような実態調査が発表されている。

それでは、本日はご協力いただきありがとうございました。